



秋剣連

発行
 秋田県剣道連盟
 〒010-0914
 秋田市保戸野千代田町14-12
 SAKAEビル 2F-B
 TEL 018-883-0680
 FAX 018-883-0663
 E-mail a-kendo@abelia.ocn.ne.jp
 http://www.18.ocn.ne.jp/~axtkendo/



秋田わか杉国体「優勝」をめざして



のじぎく兵庫国体 少年男子団体第3位

のじぎく兵庫国体 少年女子団体

全種別制覇を目指す



秋田県剣道連盟理事長

鍙 喜 裕

「まごころ国体」と絶賛された第16回秋田国体の開催が昭和36年。あれから46年、本県剣道連盟が迎える2度目の国体「わか杉国体」の剣道競技の開催がいよいよ半年後に迫りました。

「挙連一致の取り組み」をスローガンに掲げて取り組んだ国体開催事業を、成功の歓喜と感動で締めくくるには「競技運営面での成功」はもとより「競技での総合優勝」が必至であります。

運営準備・役員養成は、17年のミニ国体（東北総合体育大会）・18年のリハール大会（東北高校選手権大会）の2大会への男鹿市並びに地元剣連（男鹿市潟上市南秋田郡剣道連盟）の全力を挙げた協力に加え、先催県視察と全剣連の指導助言を基に地元国体実行委員会と剣連運営委員会が中心となって着々と準備を整えつつあります。

選手強化については、トレーニングアドバイザー並びにアドバイザーコーチや大学の合宿招聘による合宿や強化練習会を通し強化指定選手個々の競技力向上を目指すとともに、遠征や練習試合の積み重ねにより自他の戦力分析並びに国体競技の特異なルール下での戦い方の体得に努めてまいりました。各種別の選手を、技術・体力・気力ともに「優勝できるチーム」として完成させるべく、剣連長老のご指導を仰ぐとともに、在京剣友を含む全国の秋田県出身者の協力を求め万全の強化組織を固めて取り組んでおります。

競技本番まで残された期間は僅かですが、県民・開催地の皆様をはじめ強化・運営にかかわった数多くの支援者のご尽力に応えるため「4種別完全優勝による総合優勝（天皇杯順位1位）」これしかないとの決意で取り組んで参ります。

秋田剣人の燃ゆる思いを結集しようではありませんか。

特集

秋田わか杉国体に向けて
県体協兵庫国体報告会より



秋田県剣道連盟会長
長谷部 誠

剣道連盟を代表いたしました。兵庫国体における成績並びに強化に関する報告を、ご報告させていただきます。

去る10月2日、義士の町、赤穂市の剣道会場は、地元兵庫チームの決勝進出に、観衆は沸き上がっておりました。

一方、会場の控室では、決勝進出をかけた、対埼玉戦に敗れた、本県少年男子チームが、項垂れた、本県にいたしい姿で黙っていました。

私は駆け寄って、選手一人一人に「もう一つある」「頑張れ！」と、その一言しか言葉が出ませんでした。

その場を、胸のしめつけられるような思いで立ち去り、応援席にもどりました。

いよいよ20年ぶりの三位を目指す戦い、先程の選手の様子から、意気消沈しての入場かと心配しておりました。いざ入場、それは堂々として胸をはり、自信に満ちた凛とした姿、きりりと結んだ唇は、激しい闘志すら感じられました。

この選手たちが、気持ちの切りかえの出来る気概を、どこで身に付けたのか、不思議に思いました。

それは、長年の強化の賜ものを知りつつも、選手、指導陣の築き上げ、信頼の深さ、大切さを垣間見た思いが自身、いったい。私自身、いける」という気持ちに変わ

り、「絶対負けな」といふ自信が、うき、心はまさに、明鏡止水の境地で、応援出来ました。

結果は、期待通り、強豪栃木勢を5対10、本数の完全試合と見える圧倒でありました。会場正面には、全剣連副会長の加賀谷先輩、審判長席には、加藤アドバイザー、チ、審判主任席には、目黒強化委員長が試合を注視、心もち、うなずいたように感じました。秋田国体に向けては、全国に強くアピールできたのではないかと、思っています。

つけ加えておきますが、成年男子・女子共に第5位入賞こそおよびませんが、大阪戦（今回の優勝県）に、先鋒、次鋒2人先取後の逆転負けでしたが、上位入賞の手応えを十分感じることができました。

このように、本番前年に、総合4位という成果を残せたのも、県民の後押しはもとより、連盟会員一人一人の物心両面からの支援、それに応えるべく厳しく、辛く、苦しい修練に取り組みまれた選手、指導者の情熱があったからと、深く敬意を表するものであります。

それでは、「本連盟の秋田わか杉国体に対する取り組み」の骨子について申し上げます。

国体を開催する以上、好成績を挙げることに、絶対条件だという全会員の総意であります。

連盟としては、H17年から3年間にわたり、国体運営、強化に関する



のじぎく兵庫国体 応援風景

予算措置をはかり、大会を成功させたい。連盟会員に協賛金を御願い致しました。

額そのものは、些少かもしれないが、このことで全会員が、団体に關する意識を鼓舞し、一致団結して、大会の成功を願う共通の理解は、大変意義深いものだと思っております。

選手は、体協からの強化費、連盟、会員からの協賛金の趣旨を、正しく、そして深く理解するにつなかり、事業への真剣な取り組みが、一層の強化効果をもたらされていったと考えております。

もう一点は、他県の事情に目をやることがなく、秋田は秋田の人材で、秋田の国体を成功させようではないか、という高まりが、当初から叫ばれておりました。

かつて、尚武秋田」と言われた時代がありました。今こそ、先輩の築いた名声を我々の手で取りもどそうではないか、という思いが沸きおこったのであります。

このことが、選手、指導者の強いやる気を引き出し、ふるさと制度の活用が、より競争力を生み出すきっかけになるなど、一層の気運の高まりをもたらしてくれました。

以上の総意を大前提に、平成17年以降3年間の強化のあり方を中心に、強化の基本方針を策定いたしました。

秋田わか杉国体強化対策基本方針

1 本県の総合、天皇杯獲得のため、秋剣連が総力を挙げて目的達成に貢献する。

総合優勝は秋田県民の共通の願いであり、達成の為、剣道人ができる全てのことに積極的に参加、実行しようと言うことあります。

2 剣道競技4種別の優勝を最大目標にして強化に努める。

3 大会の成功は、4種別においてそれぞれ優勝戦に進出することであり、それが開催地としての使命であります。その為にも、選手・指導者は日常の修練に精根を傾けることが求められるわけであります。

候補選手の強化に対する意識付けと技術力の向上を図るための、日常活動の場、機会を設定する。

個々の選手が、自らの意欲を引き出すための条件整備を行なう。同時に県立武道館を剣道強化の中心道場として位置付け、活動の場を設定いたしました。

4 秋田国体は秋田県人の手で、そのために秋田出身者の全面的協力のもとに強化に努める。

連盟の総意は、秋田人の手で、を基本に強化が始められ、現在も一貫してあります。幸い在京剣友からも、心強い協力を約束して頂きました。特に大きい点は、基本的に選手を移入しないというところで、指導者も選手も、我ががやらなければ、という、腹を据えた取り組みが、見えてきたことでもあります。

5 指導体制の強化を図る。

人的対応を含めて、現場サイドからの要望を全面的に聞き入れながら、主体的活動ができる組織作りをはかったことでもあります。

終わりに、自分自身の思いについて、一言申し上げさせていただきます。選手が努力し、結果を出せるか、出せないかは、時の運でもあり、だれにも伺い知ることのできないものであります。その結果については、真摯にたたえなければならぬと思っております。

国体には多くのスポーツ種目がありますが、戦後60年、日本人の手で、日本の風土で、日本人の精神で、多くのスポーツをやり続けておりますが、私は、今こそ、日本人の道徳的規範を取り入れながら、スポーツの再構築があってもいいのではないかと考えております。現代は結果を求め、社会であります。

しかし、武道の世界は、それとは別に修練の過程をもっと大切にしたいと考えております。私は、いかに苦しみながらやり続けてきたか、苦勞の過程が大切であることを、もっともとうったえるべきだと思います。

困難をいかに乗り越えるか、それは自分自身との戦いであり、勝負なのであります。

我慢すらいらず、何かがあれば、他に責任を転嫁することの繰り返しでは、自己責任の決断は出来ないでしょう。

逃げないで、自分を切り捨てる、捨て身に徹するスポーツ人であってほしいと願っております。

これが出来るスポーツマンに勝利の栄光があると信じております。

- 武道では、
- 勇氣ー立ち向かう気力
 - 正義ー正しい道理・人間の行為の正しさ
 - 廉恥ー恥を知る心
 - 謙讓ーへりくだる・けんそん
 - 礼節ー礼儀

この五つを「武の五徳」といって、常に心に秘めて稽古を重ねておりますが、私にとっても道なればであります。

どうぞ、多くの連盟・協会の方々がお集まりいただいておりますが、この「武の五徳」、勇氣・正義・廉恥・謙讓・礼節をスポーツ活動の中にも生かしていけないものでしょうか。

大変乱暴な言い方になりましたが、秋田わか杉国体成功の一心というこ

(平成18年11月17日
秋田県体育協会報告会での報告要旨)

のじぎく兵庫国体

少年男子3位
成年男子・女子がベスト8
総合4位

兵庫県赤穂市赤穂市民総合体育館で10月1日、4日の4日間行われた、のじぎく兵庫国体剣道競技で本県少年男子が3位入賞、成年男子・女子がともにベスト8の好成績を収めました。

剣道競技の総合成績で、1位兵庫、2位埼玉・熊本に次いで4位60点を獲得しました。

ベスト8 成年男子チーム
ベスト8 成年女子チーム
3位入賞 少年男子チーム
(赤穂市民総合体育館)

- 少年男子1回戦
- 秋田 3ー1 長崎
 - 阿部 (3) ツー
 - 岩川 (2) コー
 - 笹山 (3) ドー
 - 水原 (3) ー
 - 山崎 (3) ー
- 末竹 (3)
本多 (2)
平石 (3)
田尻 (3)
麻生 (3)

- 2回戦
- 秋田 3ー2 東京
 - 阿部 (3) メー
 - 岩川 (2) メー
 - 笹山 (3) コー
 - 水原 (3) ー
 - 山崎 (3) コー
- 細貝 (2)
真田 (3)
三浦 (3)
今浜 (3)
石田 (3)

- 準々決勝
- 秋田 3ー2 奈良
 - 阿部 (3) ー
 - 岩川 (2) コー
 - 笹山 (3) メー
 - 水原 (3) ー
 - 山崎 (3) ドー
- 乾原 (3)
梶原 (3)
奥山 (3)
奥山 (3)
荻田 (3)

- 準決勝
- 兵庫 4ー0 秋田
 - 天野 (2) コー
 - 安田 (2) コー
 - 藤田 (3) ドー
 - 佐藤 (2) ー
- 阿部 (3)
岩川 (2)
笹山 (3)
水原 (3)
山崎 (3)

- 3位決定戦
- 秋田 5ー0 栃木
 - 阿部 (3) コー
 - 岩川 (2) ドー
 - 笹山 (3) コー
 - 水原 (3) コー
 - 山崎 (3) ドー
- 福田 (3)
横山 (2)
田崎 (3)
高橋 (3)
荒川 (2)

- 成年男子2回戦
- 秋田 3ー2 愛媛
 - 土田 (4) コー
 - 淡路 (6) コー
 - 辻村 (6) ツー
 - 後藤 (7) コー
 - 鎌田 (7) コー
- 森嘉 (4)
馬越 (5)
門田 (7)
上垣 (8)
上垣 (7)

- 3回戦
- 秋田 4ー1 鳥取
 - 土田 (4) ドー
 - 淡路 (6) コー
 - 辻村 (6) コー
 - 後藤 (7) コー
 - 鎌田 (7) コー
- 乗本 (4)
菊川 (6)
久住 (6)
山中 (7)
岸田 (7)

- 準々決勝
- 熊本 3ー2 秋田
 - 川野 (4) メー
 - 村木 (5) コー
 - 山本 (6) コー
 - 清水 (8) コー
 - 田辺 (8) コー
- 土田 (4)
淡路 (6)
辻村 (6)
後藤 (7)
鎌田 (7)

- 少年女子2回戦
- 大阪 3ー2 秋田
 - 刈谷 (2) ー
- 門間 (2)

- 成年女子1回戦
- 秋田 2ー1 大阪
 - 加藤 (4) ー
 - 山田 (5) コー
 - 秋元 (5) コー
- 松浦 (3)
神坂 (2)
三浦 (2)
貝田 (2)

- 準々決勝
- 千葉 3ー0 秋田
 - 古室 (5) コー
 - 中川 (5) コー
 - 黒川 (5) コー
- 加藤 (4)
山田 (5)
山田 (5)
秋元 (5)



ベスト8 成年女子チーム



ベスト8 成年男子チーム

わか杉国体に向けて、
今後の課題（剣道競技）



強化委員長
目黒 大作

兵庫国体4種別（成年男女・少年男女）出場、及び入賞を目標に強化にあたりました。結果は成績面でも、少年男子第3位、成年男女各5位と健闘、少年女子もベスト16で大坂（優勝）に敗れたものの内容的に十分入賞ラインの力ありと意を強くいたしました。

本県の課題は、一人一人の選手は潜在的に高い技術力を持っていないが、いまだ十分に持てる力を発揮していないのが現状であります。武道、特に剣道においては稽古の「質」と「量」それに「求道心」が不転の自己力を高め、その延長線上に潜在的技術力が表出されると言われております。選手、指導者はこの点をおいかに正確に理解、自覚し稽古に励むかが、本番での成績を大きく左右するものと考えております。

半年後に迫った国体であります。選手、指導者が一体となって、今から年度の枠を越え筋道のとれた連続的強化事業を展開していくことが急務と考えております。

国体強化選手



国体強化選手10人の少年女子チーム



国体強化選手15人の少年男子チーム

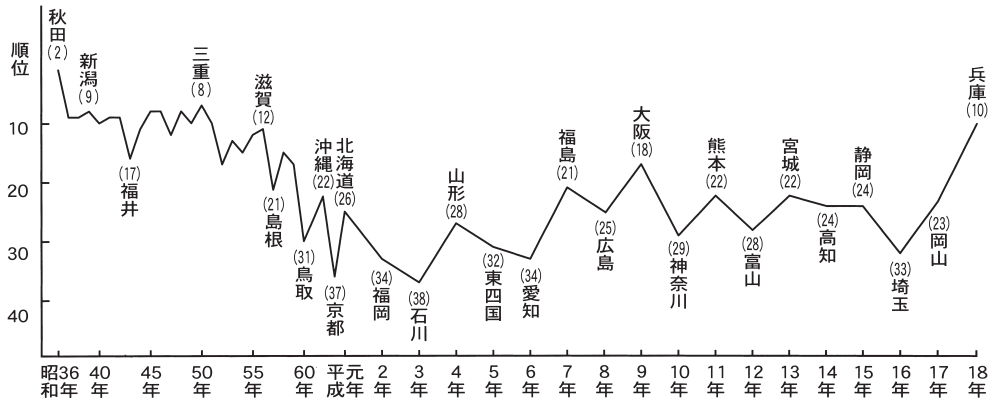


ツキのけいこを繰り返す成年女子＝県立武道館剣道場



試合さながらに気迫をみなぎらせ、けいこする成年男子＝県立武道館剣道場

※（第16回秋田国体 夏秋季大会）



昭和36年秋田国体以降の
本県の天皇杯順位

秋田県体育協会資料



東軍大将 目黒範士八段 (対) 濱田範士八段 (大阪)

9月24日、新潟県柏崎市で開かれた東西対抗戦に本県から目黒大作範士8段が東軍大将として、今春8段に昇段した田口昇教士8段が東軍16将として出場しました。試合は西軍が21勝14敗で勝利しました。

第52回全日本東西対抗剣道大会

秋田県内の剣道八段保有者は、内山眞氏、加藤正治氏、目黒大作氏、小松誠氏に加え、5名となりました。

田口昇教士七段が
剣道八段審査に合格
5月2日京都市立体育館で行われた「剣道八段審査会」において、田口昇教士(秋田県警察本部、50歳)がみごと合格されました。
この審査会には全国から1,319名が受験、合格者は16名(合格率1.2%)で相変わらずの狭き門でした。



東軍16将 田口教士八段 (対) 米倉教士八段(福島)

わか杉国体リハーサル大会・東北高校選手権大会

国体リハーサル大会・東北高校選手権大会が、6月24日、25日、男鹿市総合体育館で開催され、熱戦が繰り広げられました。

団体戦は男女とも山形県勢が優勝、男子団体は酒田商業高校、女子団体は左沢高校。男子個人戦は、福島県同士の決勝戦を制した、磐城・竹本選手が優勝。女子個人戦は、秋田北高校門間選手を延長戦の末下した、左沢・遠藤選手が優勝しました。

秋田県勢の入賞は、
男子団体 秋田南高校が3位
女子団体 秋田商業高校が3位
女子個人 秋田北高校
門間加那子選手 準優勝



女子個人準優勝：
秋田北高校 門間加那子選手



女子団体3位：秋田商業高校

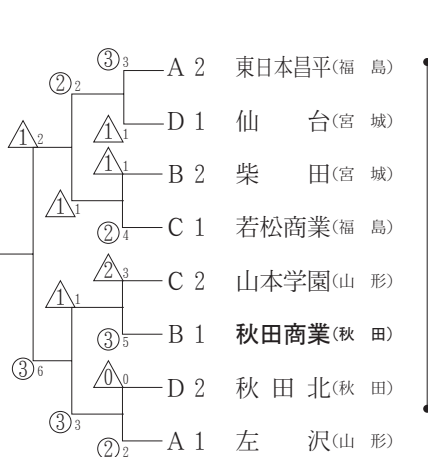


男子団体3位：秋田南高校

**女子団体決勝
トーナメント記録表**

優勝
左沢(山形)

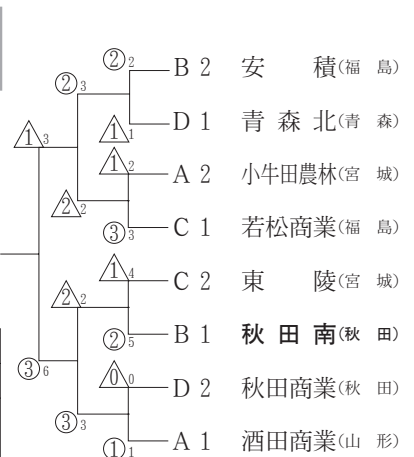
1位	左沢(山形)
2位	東日本昌平(福島)
3位	秋田商業(秋田) 若松商業(福島)



**男子団体決勝
トーナメント記録表**

優勝
酒田商業高等学校(山形県)

1位	酒田商業(山形)
2位	安積(福島)
3位	秋田南(秋田) 若松商業(福島)



平成18年度 近畿インターハイ

(平成18年8月2日、4日)

京都府立体育館

近畿インターハイ(剣道競技)は、京都府立体育館で開催されました。個人戦では、男子、山崎洵選手(秋田)、貝田理沙選手(秋田北)がともに4回戦まで駒を進めました(ベスト16)。団体戦は、男女とも予選リーグ通過はなりませんでした。

3位 敦賀(福井県) 2敗

大分 3-0 秋田商

加藤 阿部

穴見 メー 菊地

土本 石坂

田辺 メー 中居

下窪 メー 水原

秋田商 5-0 敦賀

阿部 メー 谷田

菊地 コー 富田

石坂 コー 前川

中居 ドー 小谷

水原 メー 上田

守谷 2-1 秋田北

船岡 門間

田沢 メー 松淵

鈴木 メー 神坂

細谷 メー 三浦

金井 メー 貝田

和歌山東 2-1 秋田北

宮下 門間

平田 ドー 松淵

米田 神坂

牧野 メー 三浦

山田 メー 貝田

第37回全国高等学校定時制・通信制剣道大会

(平成18年8月11日 日本武道館)

参加状況 男子182名 女子76名

参加都道府県数 33

(女子団体)

第2位 秋田

第41回全国高等専門学校体育大会 剣道競技

(男子団体)

第3位 秋田工業高等専門学校

第19回東北高校剣道選抜優勝大会

東北各県のベスト4が集って、1月28日福島県あづま総合運動公園体育館で行われました。男女とも秋田県が優勝しました。男子は、秋田南対秋田商の本県同士の決勝、秋田南が優勝。女子は秋田北が優勝しました。

(男子成績)

▽男子決勝トーナメント1回戦

秋田南 3-0 相馬(福島)

秋田商 2-0 小牛田農林(宮城)

▽準決勝

秋田南 2-0 酒田商(山形)

秋田商 0-0 東陵(宮城)

(代表決定戦)

▽決勝

秋田南 3-0 秋田商

○齋藤 コー 小林

○古戸 ドー 西嶋

○岩川 ー 大石

○小松 メー 菊地

○佐々木 ー 安田

(女子成績)

▽女子決勝トーナメント1回戦

秋田北 4-0 郡山女大附(福島)

柴田(宮城) 2-0 秋田商

▽準決勝

秋田北 2-1 左沢(山形)

▽決勝

秋田北 4-0 柴田

○門間 メー 大塚

○三森 ドー 岡田

○長門 メー 佐藤

○貝田 ー 木村

○神坂 メー 早坂

第1回東北地区選抜・内山杯 争奪少年剣道錬成大会

東北6県の他、栃木県、茨城県から団体戦158チーム、個人戦17名がエントリーして9月3日県立武道館で開催されました。

今大会は、本県剣道道場連盟名誉会

(男子個人)
予選 Aブロック
1位 大分(大分県) 2勝
2位 秋田商(秋田県) 1勝1敗

(女子個人)
予選 Eブロック
1位 守谷(茨城県) 1勝1分
2位 和歌山東(和歌山県) 1勝1分
3位 秋田北(秋田県) 2敗

(男子個人)
(1回戦)
山崎 洵③メコード 広田 信喜② (龔谷富山・富山)
(秋田)
草薙 大心③メー 桑野 優大② (阿蘇・熊本)
(大曲)
(2回戦)
山崎 洵③コ 山本 真也③ (明德義・高知)
(秋田)
草薙 大心③メー 高山 優太② (常盤・群馬)
(大曲)
(3回戦)
山崎 洵③メドーメ 大城 朝彦② (興南・沖繩)
(秋田)
村瀬 直樹③メー 草薙 大心③ (大曲)
(大曲)
(4回戦)
亀田健一郎②メー 山崎 洵③ (秋田)
(毒西・北澤)

(女子個人)
(1回戦)
貝田 理沙②メー 内田加七子② (済美・愛媛)
(秋田北)
迫 美樹②メー 松淵 和③ (高千穂・宮崎)
(秋田北)
(2回戦)
貝田 理沙②メー 益村 美里② (樟南・鹿児島)
(秋田北)
(3回戦)
貝田 理沙②メー 永吉 菜摘③ (秋田北)
(秋田北)
(4回戦)
木村 織江③メー 貝田 理沙② (淑徳写野・埼玉)
(秋田北)

守谷 2-1 秋田北
船岡 門間
田沢 メー 松淵
鈴木 メー 神坂
細谷 メー 三浦
金井 メー 貝田
和歌山東 2-1 秋田北
宮下 門間
平田 ドー 松淵
米田 神坂
牧野 メー 三浦
山田 メー 貝田

秋田南 3-0 秋田商
齋藤 コー 小林
古戸 ドー 西嶋
岩川 ー 大石
小松 メー 菊地
佐々木 ー 安田
女子決勝トーナメント1回戦
秋田北 4-0 郡山女大附(福島)
柴田(宮城) 2-0 秋田商
準決勝
秋田北 2-1 左沢(山形)
決勝
秋田北 4-0 柴田
門間 メー 大塚
三森 ドー 岡田
長門 メー 佐藤
貝田 ー 木村
神坂 メー 早坂

長 内山 眞範士の幼年剣道の普及・指導の功績を讃え、昨年度までの東北地区錬成大会に加え関東からの参加を募り「内山杯争奪剣道錬成大会」としたものです。

栄えある第1回大会の優勝は、小学生低学年 振武館A（福島）、小学生高学年 秋水館鎌田道場A（秋田）、中学生 燕剣道錬誠会（新潟）でした。



小学生高学年優勝 秋水館鎌田道場A

- 各部ベスト4
- ・小学生低学年（団体）
 - 3位 秋水館鎌田道場A（秋田）
 - ・小学生高学年（団体）
 - 優勝 秋水館鎌田道場A（秋田）
 - ・中学生（団体）
 - 準優勝 山王中武徳館A（秋田）
 - 3位 鷹武館飯島中道場B（秋田）
 - ・小学生低学年（個人）
 - 優勝 渡辺 柚（神武館）
 - ・小学生高学年（個人）
 - 優勝 菊地 裕太（秋水館）
 - 3位 筒井 雄大（秋水館）

- ・中学生男子（個人）
- 3位 柏木 貴成（秋田城南立志館）
- ・中学生女子（個人）
- 優勝 筒井 千晶（秋田・飯島中）
- 3位 林 瑞木（秋田・附中千秋）

第41回
全日本少年武道（剣道）錬成大会
秋水館鎌田道場が優勝

7月29日日本武道館で開催された錬成大会で、秋水館鎌田道場が優勝を飾りました。この大会には472チームが参加。
16コートに分かれて熱戦が繰り広げられ、コート優勝チームによるブロック決勝戦（8ブロック）が行われました。

第38回全日本官公庁大会

秋田刑務所が3位入賞
11月4日東京武道館で開催されたこの大会で、秋田刑務所チームが3位入賞を果たしました。



全日本官公庁大会 第3位 秋田刑務所チーム

秋田刑務所チームは、3回戦・8コートで行われたコート準決勝で2年連続優勝の警視庁剣道クラブと対戦、代表決定戦で勝利を収めました。その後準決勝まで勝ち上がり、優勝した名古屋刑務所に2対3で惜しくも敗れたものの、見事3位に輝きました。

平成18年度
全日本剣道連盟剣道有功賞



秋田市剣道連盟会長
佐々木榮次 氏

少年剣道教育奨励賞を
4団体が受賞

全日本剣道連盟「平成18年度少年剣道教育奨励賞」の授賞が行われました。本県の受賞団体は山本剣道スポーツ少年団、飯島少年剣道クラブ、飯田川剣道スポーツ少年団、有武館渡部道場の4団体でした。

全日本高齢者武道大会

（平成18年6月5日 日本武道館）
B（65歳から69歳）
三位



木内 直幹 氏
（秋田）

湯沢3時間立切試合
基立六剣士、好成绩で立切る

1月21日、湯沢市雄勝剣道連盟主催の第28回立切試合が行われました。基立は男子4剣士、女子2剣士の計6剣士で、男子は3時間（33人と対戦）、押しは2時間（22人と対戦）の立切が行われました。

男子

矢野宏光教士七段（大学教員・湯沢市）、佐藤健司錬士六段（県警機動隊・秋田市）、菅原豪錬士六段（高校教諭・岩手県）、黒金浩一五段（福島県警）

女子

内山真由美四段（秋田銀行・秋田市）、佐藤功伊三段（自衛官・福島県）
最優秀基立剣士 奥山京助範士旗は
佐藤選手（29勝1敗3分）が受賞。
最優秀 挑戦者 大谷博信教士杯は
辻村憲二錬士七段（秋田刑務所）3勝1分）が受賞。



立切基立の6剣士

恩師の思い出 (2)



剣道範士 加藤 正治

昭和十五年に高中晃先生の後任として修道学院出身の内山真先生が秋商に就任されました。私が四年生の時です。それから六十七年の歳月が過ぎました。私は秋商を卒業し、修道学院に塾生として入り、東京鉄道局へ一年間奉職しました。修道学院には若先生の高野弘正先生はじめ奥山直文先生・菅原恵三郎先生・滝沢光三先生・佐土原勇先生・鶴見岩夫先生・柿沼忠次郎先生・菊池伝先生・福岡明先生・高野武・初江先生等大勢の恩師がおり、特別剣道の稽古ばかりでなく、人間形成の道のご教導を受けた次第です。

内山先生と私との今日までの六十七年間は師弟同行の言葉通り、先生のご教導があったからこそ、現在の私がある訳です。私は、身体の不調で何一つお手伝い出来ず、全く申し訳なく存じておる現状です。

東京鉄道局から東京体専への入学に關しては、菊池伝先生が親身になり、秋田の家まで来て下さり、父にお願いするやら、三橋秀三先生宅まで度々私をつれて行き、推薦して下さいさったり、今考えてみても先輩の諸

先生が後輩のため、こんなに親身になってお世話下さったことを考えてみても、改めて剣道をやった来たことを本当によかったと、有難く、感謝の気持ちで一杯です。

○率先垂範
東京体専時代は、三橋秀三先生の思い出が何はさて置き第一番に出ています。

「剣道指導の第一義は率先垂範である。」と常々先生の口から、そして行動に現して指導なされておりました。「剣道は言葉で指導するのではなく、実践を通して、自然に実力が身につくものである。」と何時も云われておりました。

東京体専時代は大東亜戦争の最中でもありましたので、当時は勤労奉仕は日常茶飯事のことでした。夏休みには樺太へ行ったり、春休みには静岡の造船所へ行き、授業以上に奉仕活動が主体のようにも考えられた時代でした。

その当時の授業を思うと、授業開始前の朝稽古こそ、剣道で鍛える最大の勉強であると云われておりました。晴れた日はグラウンドで、雨の日は体育館で、授業の始まるまで、形の練習を続けて、先生のご指導を受けた次第です。勿論毎日行うことによつて、他の誰よりも、少しでも多く数を掛け、繰返し、繰返し一本でも多くやるのが三橋先生の指導の基本でもあったと思われまます。そして占部誠先生は担任としてご指導いただき思い出の大きな存在の先生で

もありました。

○母校への思い

秋商初代校長黒沼義介先生の校訓の一つに「四恩に感謝すべし」があり、秋商へ赴任当時の校長皆川一先生の「秋商我と共に在り」の教訓。昭和二十七年から三十三年までは、潮田潔校長が「秋商一家」を合言葉に、各部の活動が始動し、その成果が芽生えて来た時代でした。合宿しながら先生と一緒に飲む程に酔う程に、一致団結し、職員、父兄、OB等一丸になった姿を思うとき、これこそ真の団結であり、教育の底力であると感動し感銘する心境であった。

戦後母校のサッカー部が全国初優勝の偉業を成し遂げることが出来たのも「秋商一家」の総力が結集された賜物だと信じております。剣道も「しない競技」から剣道時代が再現され剣道でも優勝出来た喜びは私の一生を通して最高の思い出となっております。

前回湯沢で行われたまごころ国体では、二部制で成年の部・少年の部共に二位で総合優勝の成績でした。今年度二度目の秋田わか杉国体も後二四〇日しかありません。

選手候補は勿論強化・強化と練習に専念しておりますが周囲の皆々様のより以上のご協力・ご支援の程よろしくお願いを申し上げ、大会の成功を念じている次第です。
平成十九年二月一日

お知らせ

秋田県剣道連盟稽古会 (県立武道館)

火曜日 17時30分～19時 高校生
18時30分～20時 一般
水曜日 17時～18時30分 小・中学生
18時30分～20時 一般

※国体に向けた強化練習、基盤強化の為の練習を実施しています。連盟会員ならどなたでも参加できます。積極的に参加しましょう。土・日曜日の稽古会も計画しております。

秋田県剣道連盟ホームページ開設

http://www.18.ocn.ne.jp/~axtkendo/

※連盟からのお知らせ、日程、戦績などを掲載しております。是非、ご利用下さい。

編集後記

例年にならない暖冬、遥か遠方ペルー沖のエルニーニョが原因とのこと。暖かな冬に慣れてしまった身体には、三月に入ってから寒気は身にしみまます。とは言え各地からの桜開花ニュースは、春がそこまで来ていることを伝えていきます。

秋田わか杉国体開催までのカウントダウンは二百日を切り、秒読み段階に入ってきました。今回は、のじぎく兵庫国体の結果報告とわか杉国体に、多くの紙面を割きました。長谷部会長の兵庫国体報告会記事、鑑理事長の巻頭言、目黒強化委員長の記事は、ともに国体開催に向けての意気込み・心構えが明確にされています。秋剣連一丸となって立ち向かい、今秋には第八面に掲載したような特集記事を組みたいものと考えております。秋剣連ホームページは、立ち上げ三周年目、毎日百人弱の方がアクセスされています。秋剣連広報の両輪として、内容充実を努めて参ります。(39Y)

編集

秋田県剣道連盟広報委員会
委員長 大森 宣昌